

特集

防災

●はじめに

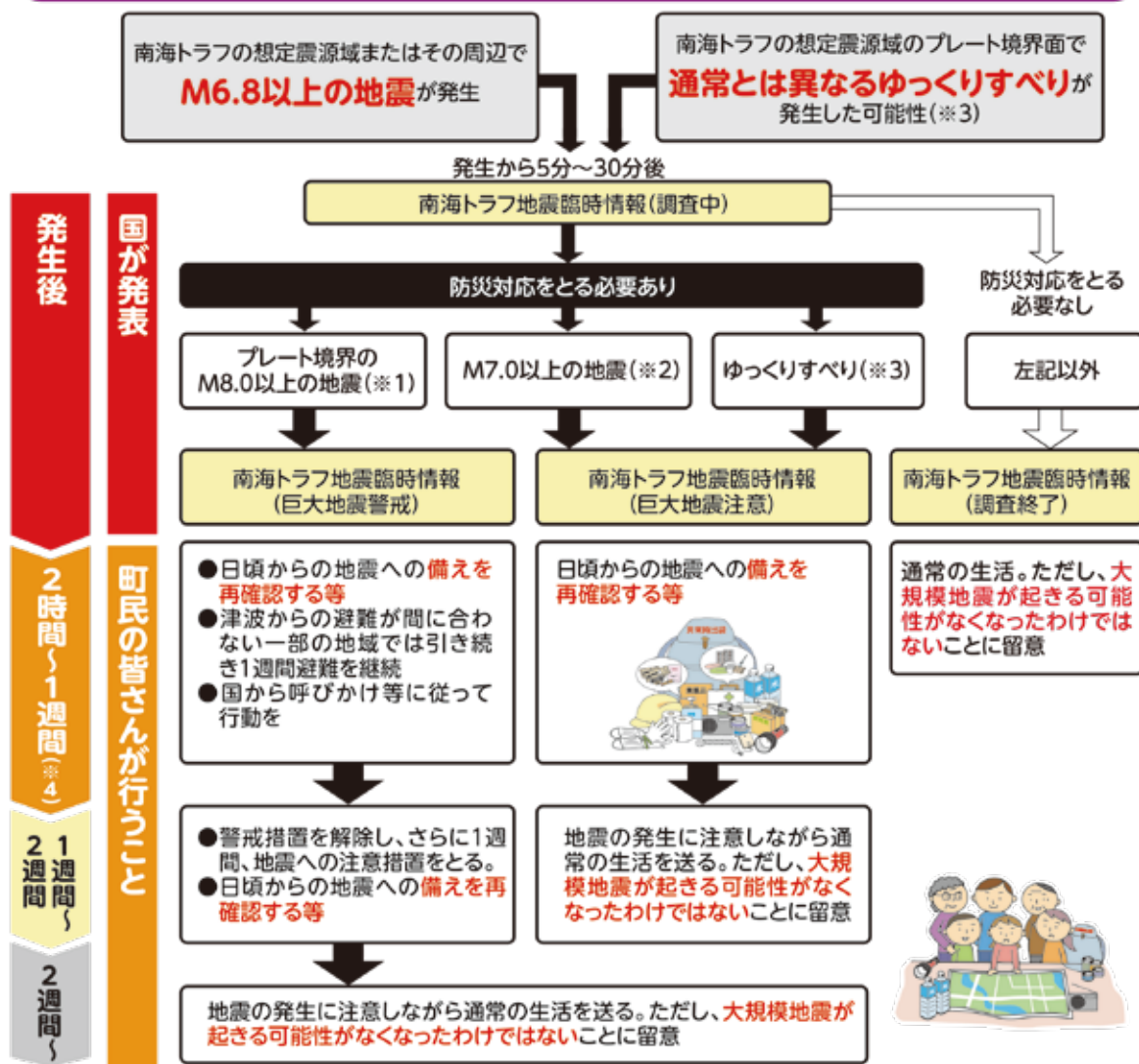
本町は春日井台地の裾に位置し、洪積層からなる地盤が固いことから、過去の濃尾地震などでも周辺地域に比べて被害が少なかったという特徴があります。しかし、古い木造家屋の密集地域が多く、大規模な地震発生時には建物火災が広範囲に拡大する可能性が懸念されます。

南海トラフ地震が発生した場合、最大でほぼ全域が震度6弱の揺れに見舞われると予測されています。8月8日に宮崎県で震度6弱の揺れを観測した地震を受けて、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表され、地震への備えを再確認する呼びかけがされました。

南海トラフ地震が起きる確率は今後30年以内に70%から80%とされています。いつ大規模地震が起きてもおかしくないことを意識し、ご家庭での防災意識を高め、避難経路の確認や備蓄品の用意等、しっかりご準備ください。

●南海トラフ地震臨時情報について

地震発生後の防災対応の流れ



※1：想定震源域のプレート境界でM8.0以上の地震が発生した場合（半割れケース）

※2：想定震源域、またはその周辺でM7.0以上の地震が発生した場合（ただし、プレート境界のM8.0以上の地震を除く。）（一部割れケース）

※3：住民が揺れを感じることがない、プレート境界面のゆっくりとしたずれによる地殻変動を観測した場合など（ゆっくりすべりケース）

※4：ゆっくりすべりが観測された場合は、それが収まったと評価されるまで